

郡上農林事務所の普及活動状況

令和2年6月25日現在

今月の重点活動

■だいこん 新型コロナ対策で労働力確保

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、新型コロナウイルス感染症の影響により、受入れ予定の中国人実習生13名が来日できず、突然の労働力不足に陥った。

そこで農業普及課では関係機関と連携し、観光客が激減した物産店やオフシーズンのスキー場従業員等に声をかけ、7戸の農家にて12名の働き手を確保することができた。

農家からは「働きに来てくれてありがたい」「これで仕事が順調に進む」などの声が聞かれ、また働きに来ている方も「収穫作業もやってみたい」など積極的に作業に従事している。

今後「農業労働力確保緊急支援事業」の活用も検討しており、農業普及課では技術指導だけでなく、引き続き幅広く産地の支援を行う。



【作業をする働き手】

多様な担い手づくり

■指導農業士 三密を避け役員会を開催

郡上指導農業士会は、今年度最初の役員会を6月9日に三密を避けた方法で開催、今後の事業計画について検討した。

毎年、可茂地区と中濃地区を加えた中濃ブロックで研修会を開催しており、本年度は郡上地区が当番となっている。このため、研修会をどうするかが主に検討され、最終的に8月26日に高鷲地域で開催することとなった。

農業普及課では、事務局として新型コロナウイルスへの対策を整え、行事などの開催を進める。



【三密を避けて開催】

■青年農業士 新規青年農業士に認定証を交付

本年度、新たに1名の青年農業士が加わることとなり、6月17日に郡上総合庁舎にて認定証の交付式を開催した。

当日は、新たに青年農業士に認定された靄山雄太氏を招き、県を代表して郡上農林事務所長より認定証を交付、地区青年農業士会長らより激励の言葉を受け、靄山さんが決意表明を行った。また、交付式終了後は、市も交え意見交換会を開催した。

農業普及課では、今後も関係機関と連携を図り、会の活動支援を行う。



【交付式出席者一同】

■普及活動 第1回営農連絡会議を開催

郡上地域では、市・J A・農業振興課・農業普及課を交え、連携会議を定期的に行っているが、本年度は新型コロナの影響で第1回目の営農連絡会議を2カ月遅れの6月15日に漸く開くことができた。

今回は三密を避け、参加者を大幅に限定した開催となったが、新規就農やスマート農業支援など密接な連携が求められる重点課題だけでなく、新型コロナ対策など緊急な課題についても各機関の取組みを情報交換し、活発な議論を深めることができた。

農業普及課では、今後も課題解決のため定期的に営農連絡会議を開催し、関係機関との連携を進めていく。

売れるブランドづくり

■花き 郡上総合庁舎、市役所本庁舎にて花飾りを実施

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込みつつある県産花きの需要を促進するため、県総合庁舎など県関係12施設と郡上市役所をはじめとする県内市町村42施設にて花飾りが、実施されている。

第1回目となる今月の花飾りには、郡上市産のフランネルフラワーとヒマワリが使用された。

庁舎を訪れた方から「郡上市内で作っていることを初めて知った」などの声も聞かれ、農業普及課ではこの機会を利用して地元産花きの需要促進に向け広くPRに取り組む。



【庁舎を彩る切花と鉢花】

■水稻 高品質、安定生産を目指して

農業普及課では、郡上市にて良食味米の生産とブランド化を支援しており、さらなる食味向上を目指して、ぎふ米産地生産対策強化推進事業を活用し、実証担当農家の協力のもと土づくり資材の実証ほを設置している。

6月17日には、JAめぐみの、肥料メーカーの協力のもと生育調査等を行った。本年は5月上旬の田植以降、昼夜の温度格差が大きい気象で推移したが、水稻は問題無く順調に生育している。

今後も、JAや肥料メーカーなど関係機関との連携のもと、生育調査を継続、生育に合わせた穂肥の適期・適量施用等を指導し、資材の効果確認を行う。



【生育調査の様子】